

# ソーシャル・インパクトを計測する

ーグローバルな動向ー

2020年7月31日（金）

JPBVオンライン対話会

多摩大学社会的投資研究所

研究員 小林立明

# 0. 自己紹介



## 小林立明

多摩大学社会的投資研究所  
研究員  
Kobayashi-t@tama.ac.jp

## ■所属学会■

- ・日本NPO学会
- ・日本評価学会
- ・社会政策学会
- ・国際サードセクター研究学会 (ISTR)
- ・ファイナンシャル・インクルージョン研究会

## □ 学歴・研究歴

- 1987 東京大学教養学部教養学科関連社会科学専攻（学術学士）
- 2012 ペンシルバニア大学NPO指導者育成修士課程（M.A.）
- 2012-2013 ジョンス・ホプキンス大学市民社会研究所客員研究員

## □ 職歴

- 1990-2011 国際交流基金（韓国・米国勤務、アジアセンター、企画評価課等）
- 2014-2015 日本財団国際ネットワークチームリーダー
- 2017 学習院大学国際センター准教授
- 2018 多摩大学大学院MBAコース客員教授（ソーシャル・ファイナンス担当）
- 多摩大学社会的投資研究所研究員（現職）

## □ 主要業績

- 「英国チャリティ：その変容と日本への示唆」（共著、弘文堂、2015）
- 「フィランソロピーのニューフロンティア」（レスター・M・サラモン著、翻訳、ミネルヴァ書房、2016）
- 「社会的インパクトを投資可能にする」（マクシミリアン・マーチン著、翻訳、笹川平和財団、2014）
- 「国際グラント・メイキングの課題と展望：グローバル・フィランソロピーの時代における助成財団の新たな役割」（笹川平和財団、2013）
- 「スモールマート革命」（マイケル・シューマン著、共訳、明石書店、2011） 等

## □ 主要研究領域

- ・ ソーシャル・ファイナンス
- ・ グローバル・フィランソロピーと戦略的グラント・メイキング
- ・ 社会的インパクト評価 等

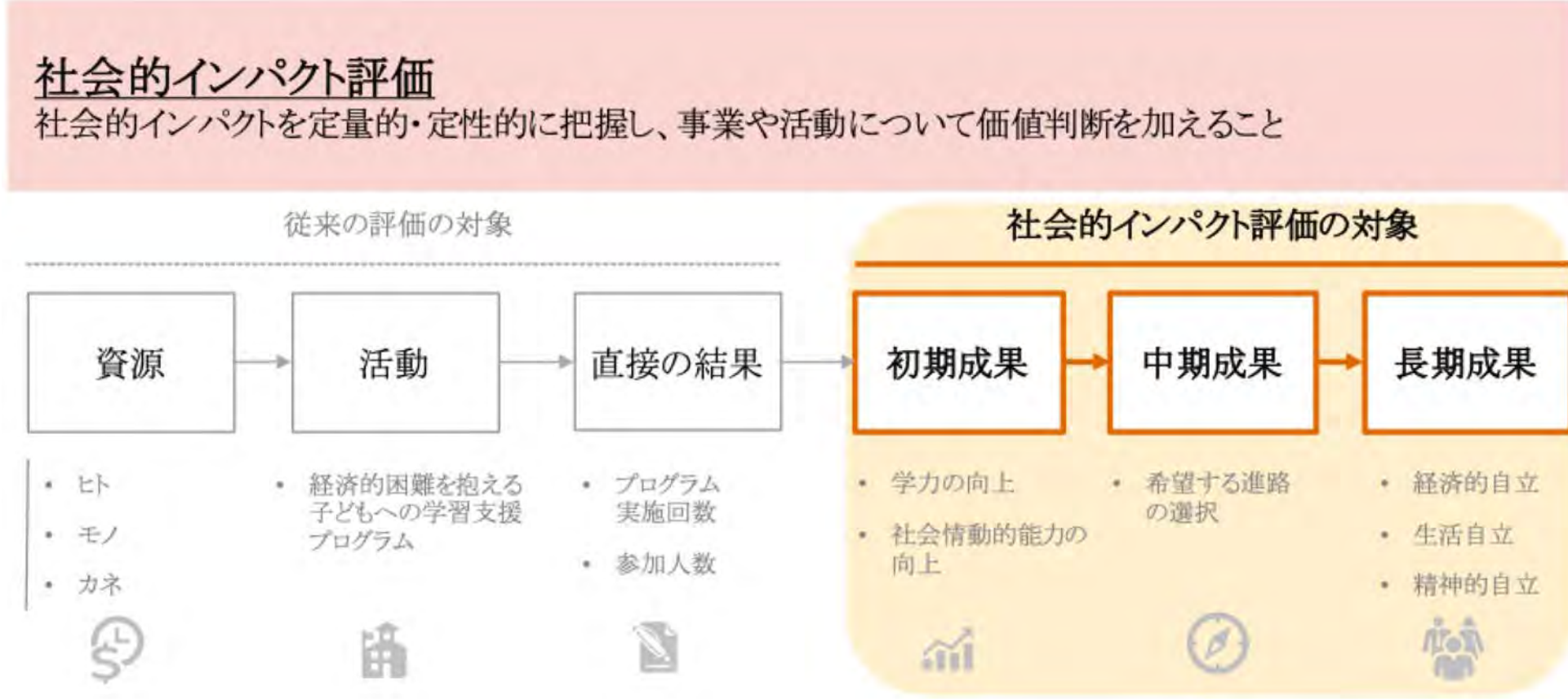
## □ 主要委員等

地球環境基金評価専門委員会委員(2018-)、厚生労働省社会的事業評価委員 (2018-19)、内閣府成果連動型助成事業有識者委員会委員 (2020)、休眠預金資金分配団体 (JCIE) 評価アドバイザー、日本NPO学会評価士研修講師

ソーシャル・インパクトと評価

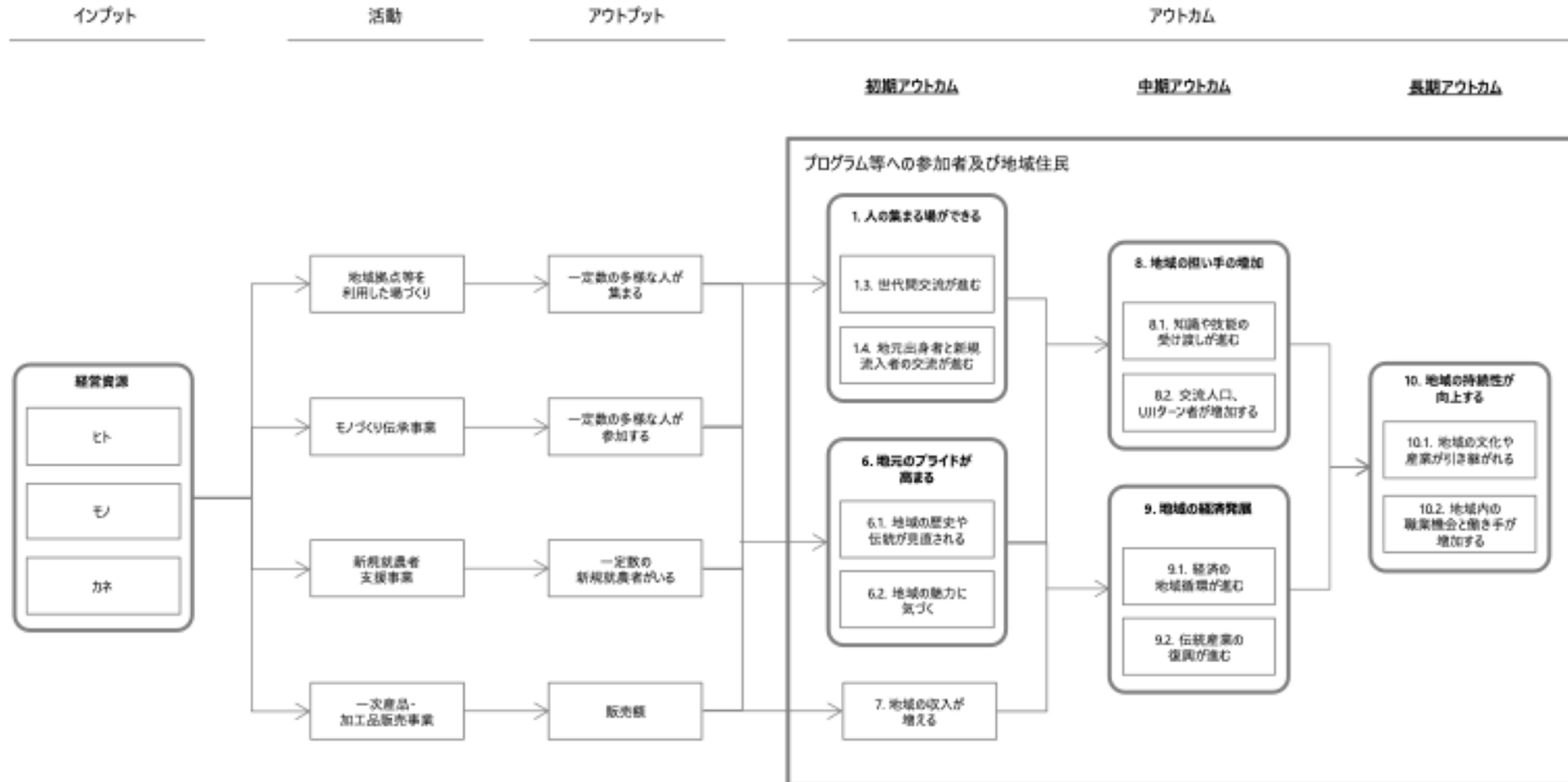
# 1. ソーシャル・インパクトとは？

■ 社会的インパクト  
→短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の成果として生じた社会的、環境的なアウトカム  
(内閣府 (2016) 「社会的インパクト評価の推進に向けて」)



## 2. ロジック・モデル例

図表2：地域・まちづくりのロジック・モデル（類型2）



\*個々のアウトカムのグルーピングは、本ツールでは便宜上行っている。

### 3. インパクト・マネジメント・プロジェクト (IMP)

#### ■ IMPとは？

- ▶ インパクトの測定・マネージ手法に関するグローバルな合意形成を目指して設立されたフォーラム。2000以上の組織が実務家コミュニティに参加している。
- ▶ ネットワークには、主要な国際機関、インパクト投資関係機関、評価・報告機関が参加し、戦略策定からマネジメント、評価・報告の一元化を目指す。
- ▶ 事務局は、英国ブリッジズ財団が担っている。



## 4. インパクト・マネジメント・プロジェクト（IMP）のアプローチ

### ■ 5次元モデル

- ▶ インパクトを、「何を」「誰が」「どの程度」「貢献するか」「リスクは」という5つの次元に整理。
- ▶ 各次元を検証するためのデータを整理することで、インパクト評価の一元化を図る。

インパクト次元	各次元が追求するインパクトについての質問項目
何を (What)	<ul style="list-style-type: none"><li>● どのような成果が一定期間内に生じるのか？</li><li>● その成果はポジティブなものか、ネガティブなものか？</li><li>● その成果は、影響を受ける人びとや地球にとってどの程度重要か？</li></ul>
誰が (Who)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 誰がその成果を受け取るのか</li><li>● その成果の影響を受ける関係者は、どの程度、恵まれない状況にあるのか</li></ul>
どの程度 (How Much)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 影響の規模、深さ、持続期間において、どの程度の成果が生じるのか</li></ul>
貢献するか (Contribution)	<ul style="list-style-type: none"><li>● この変化は、介入なしでも起こりえたのではないか？</li></ul>
リスクは (Risk)	<ul style="list-style-type: none"><li>● インパクトが期待通りに生じなかった場合の人びとや地球に対するリスクは何か？</li></ul>

# 5. インパクト・マネジメント・プロジェクト（IMP）のアプローチ

- ## ■ 3タイプ
- ▶ インパクトを、3つのタイプに整理。
  - ▶ これにより、インパクト投資からサステナブル投資、ESG投資までを網羅しようとする。

	A 損害を避ける (Act to avoid harm)	B 関係者を益する (Benefit stakeholders)	C 課題解決に貢献する (Contribute to solutions)
(人々・地球に) に 損害を引き起こす	<ul style="list-style-type: none"><li>• 規制遵守</li><li>• リスク緩和</li><li>• 責任ある行動</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 環境に良い商品やサービス、経済活動</li><li>• 社会に良い商品やサービス、経済活動</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• アフリカの栄養問題解決に取り組む</li><li>• 教育格差の解決に取り組む</li></ul>
	ESG投資	サステナブル投資	インパクト投資



# ソーシャル・インパクト市場と評価

## 6. ソーシャル・インパクトの市場規模 (1)



### ■ 社会的インパクト投資市場の規模

- 日本におけるインパクト投資残高は**4480億円**と推計。全世界では**5020億ドル**。(2019年時点)
- 調査対象は、「社会面・環境面での課題解決を図るとともに、財務的リターンを追求する投資行動で、社会的インパクト評価を含む、インパクトに関する評価を投資前および投資実行後に実施しているもの」
- 「投資」として、投資（株式・債券）、融資、リース等、一切の金融取引を含めている。

## 7. ソーシャル・インパクトの市場規模 (2)



### ■ サステナブル投資におけるインパクト投資の規模

- ▶ サステナビリティ・テーマ型投資とインパクト／コミュニティ投資をあわせて**約3兆4540億円**と推計。

#### 概要

	2017年	2018年	2019年
サステナブル投資残高(百万円)	136,595,941	231,952,250	336,039,620
総運用資産残高に占める割合	35.0%	41.7%	55.9%
運用資産残高回答機関数(18年以降は+JSIF推定機関数)	32	42	43

#### 運用手法ごとのサステナブル投資残高

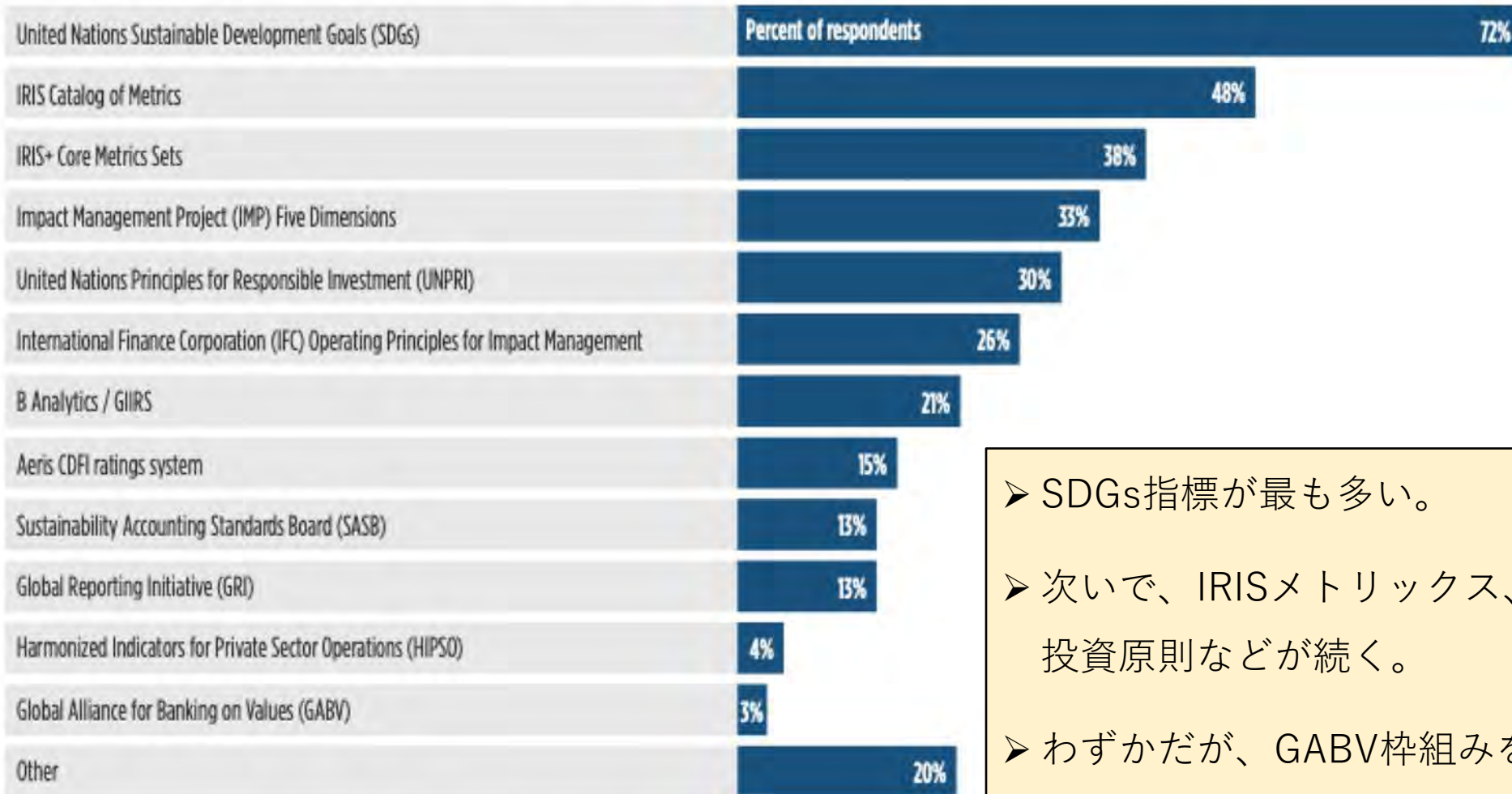
(単位:百万円)

	2017年	2018年	2019年
ESGインテグレーション	42,966,133	121,511,832	177,544,149
ポジティブ・スクリーニング	6,693,443	6,425,278	11,685,122
サステナビリティ・テーマ型投資	1,384,773	2,014,546	3,454,089
インパクト・コミュニティ投資	372,616		
議決権行使	55,007,706	132,034,774	187,435,331
エンゲージメント	88,037,433	140,754,582	218,614,475
ネガティブ・スクリーニング	14,309,760	17,328,216	132,232,671
国際規範に基づくスクリーニング	23,908,999	31,604,106	25,560,889

(日本サステナブル投資フォーラム(2020)「サステナブル投資残高調査2019」)より引用

## 8. インパクト投資におけるインパクト評価の現状

### インパクト投資家が使用するインパクト評価ツール・枠組み



- SDGs指標が最も多い。
- 次いで、IRISメトリックス、IMP5次元評価、国連責任投資原則などが続く。
- わずかだが、GABV枠組みを使用している例もあり

Note: Others include SPTF/CERISE SPI4, GOGLA, and CDFI certification systems.

Source: GIIN, *The State of Impact Measurement and Management Practice, Second Edition*

GIIN(2020) *The State of Impact Measurement and Management Practice* より引用

銀行におけるソーシャル・インパクトと評価

## 9. ポジティブ・インパクト金融原則

### ■ ポジティブ・インパクト金融原則とは？

➤ 国連環境計画（UNEP）が2015年に提案。SDGs実現を目指す企業向けの投融資における原則を提供。

#### ➤ 原則1「定義」

ポジティブ・インパクト金融は**ポジティブ・インパクト・ビジネスのための金融**である。

#### ➤ 原則2「枠組み」

事業主体（銀行、投資家など）は、自身の事業活動、プロジェクト、プログラムや、投資先の活動により期待される**ポジティブ・インパクトを特定し、これをモニターするための必要なプロセス、方法、ツール**を決定する。

#### ➤ 原則3「透明性」

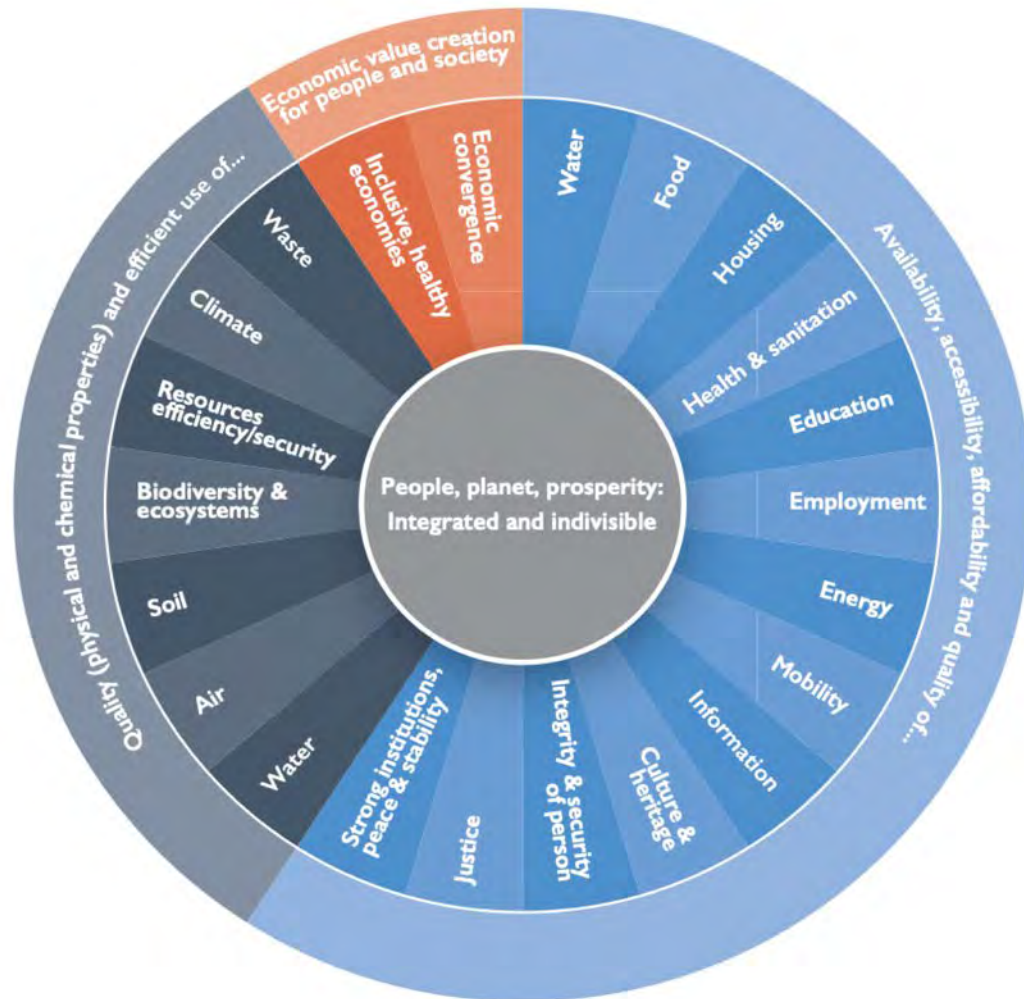
事業主体（銀行、投資家など）は、「意図したポジティブ・インパクト」、「デュー・ディリジェンスや影響のモニタリング・検証」、「達成したインパクト」について、**透明性の確保と情報開示**を行う。

#### ➤ 原則4「評価」

事業主体（銀行、投資家）のポジティブ・インパクト金融は、意図したインパクトの達成度に基づき、**内部監査・評価や第三者による認証・格付**を通じて評価されなければならない。

# 10. ポジティブ・インパクト金融原則が想定するインパクト領域

## インパクト・レーダー



### ■ インパクト・レーダーとは

ポジティブ・インパクト金融を行おうとする金融機関が、インパクトの特定を行うのを支援するツール。SDGs目標と既存のインパクト指標をつなぐカテゴリーの役割を果たす。

#### 1. 人の尊厳と発展に不可欠な分野

水、食糧、住居、保健・衛生、教育、雇用、エネルギー、移動手段、情報、文化・遺産、清廉と安全、正義、平和と安定

#### 2. 環境の質の確保と効率的な利用

水、大気、土壌、生物多様性と生態系、資源の効率的利用と確保、気候、廃棄物

#### 3. 環境の限度内での人と社会のための経済価値の創出

包摂的で健全な経済、経済的統合

# 11. 国連責任銀行原則

## ■ 国連責任銀行原則とは

2019年9月に国連環境計画が策定した原則。社会的目標を達成するために銀行が指導的な役割を果たすことを期待。

連携

- SDGs、パリ気候協定他に示されている個人ニーズと社会的目標にビジネス戦略を連携させ、これらとの整合性を確保し、この実現に貢献する。

インパクトと  
目標設定

- **自行の活動、商品・サービスが人や環境にもたらすネガティブ・インパクトの減少、ポジティブ・インパクトの拡大、リスクのコントロールのため、最もインパクトのある目標を設定、公表。**

取引先と顧客

- 持続可能な実践を奨励し、現在および将来世代と繁栄を分かち合うことのできる経済活動を可能にするために、取引先・顧客と責任感を持って協働する。

利害関係者

- 社会の目標を達成するため、積極的かつ責任をもって当該利害関係者との協議、参加、パートナーシップを行う。

ガバナンスと文化

- 効果的なガバナンスと責任ある銀行文化によって、これら諸原則を誠実に遂行する。

情報公開と  
説明責任

- これら諸原則の独自の達成状況や共同の達成状況を定期的に検証する。また、活動のポジティブ／ネガティブ・インパクトや社会的目標への貢献度について、情報を開示し、説明責任を果たす。



## 12. 国連責任銀行原則におけるインパクト分析

2020年にインパクト分析に関するガイダンス文書と、銀行のポートフォリオにおけるインパクト決定&評価ツールのプロトタイプが公開された。



### インパクト分析の要件

- 銀行のコア・ビジネス領域をカバーしていること
- 以下の点に配慮していること
  1. 特定の産業、技術、地理に関わる銀行活動の規模
  2. 銀行が操業する国/地域の持続可能な開発に最も関連の深い課題と優先領域
  3. 特定された社会、経済、環境インパクトの規模、強度/突出度

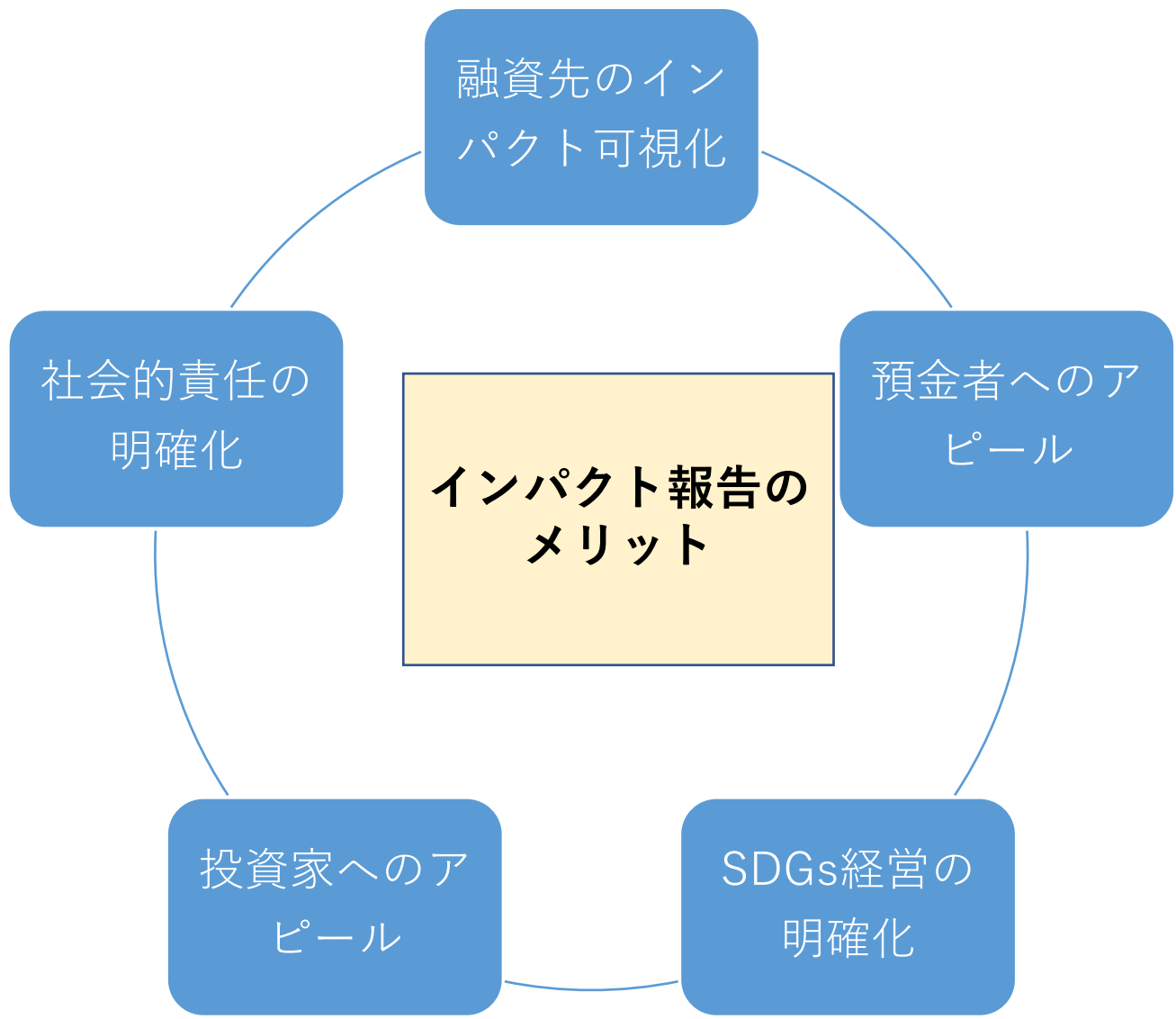
### インパクト分析の手順

- その上で、銀行向けポートフォリオ・インパクト分析ツールを活用して、インパクト・レーダーに基づくインパクトの特定、最優先インパクト領域におけるインパクト評価を行うことを求める。

# 13. GABVメンバーに広がるインパクト報告



14. JPBVメンバーもぜひ「インパクト報告」を作成しましょう！



**インパクト評価・報告プロセス**

インパクト目標設定/  
地域の優先領域確定

事業性評価項目見直し/  
案件審査への組み込み

成果指標の設定/  
SDGs目標との関連付け

モニタリング/  
インパクト評価

インパクト報告作成